

「学ぶこと」は、子どもにとっても大人にとっても本来楽しいことのはずです。毎年、卒園間近になると年長さんたちは「小学校に行ったら、〇〇の勉強をがんばりたい」・・・など、勉強をできることを楽しみにします。でも、なぜか時間が経つと、学年が上がるにつれて「勉強が好き、勉強が楽しい」という子どもたちを見かけなくなっていきます。

保育園の子どもたちを見ているとわかるように、自分で興味を持ったことはなんでもやりたがりますよね。「まだ小さいから、それは無理だろう」と大人が思うようなことでも「(自分で)やる!」と言ってきかないこともしばしば・・・。

大人から見たら、「ただ遊んでいるだけ」に見えるかもしれませんが、「遊び」とか「学び」とかに分けているのは大人の勝手な分類であって、子どもたちは「おもしろいことに夢中になり、何かしら学んでいる」ものです。

知らなかったことを知る、わからなかったことがわかる、できなかったことができるようになる、いずれも自分の世界を拡げているのだと思います。自分に備えられた様々な力を使いこなせるように練習しているのだと思います。そうして自分自身の世界が広がっていることを実感できるのはとてもうれしいことだと思いますし、さらにその過程を友だちや周りの大人に共感してもらえれば、本人も周りも、もっとうれしく、楽しいことだと感じられるはずですよ。

自分の興味のあること、やりたいと思ってやることは、周りの大人がいろいろ言わなくても自ら進んでやります。そうした姿を大切にしていこう、生涯学び続けようとする人に育つようにという願いもあって、現在、幼児教育の現場では、「遊びを中心とした学び・子どもの主体性を重視した幼児教育・保育」が広がりつつあります。

しかし、先述のように学校にあがると段々勉強嫌いの子が増えていってしまいます。

インターネットの記事ですが、熊本大学の苫野先生の興味深い記事が連載されています。

苫野一徳先生(熊本大学教育学部准教授)へのインタビュー記事から一部抜粋・・・

子どもを勉強ギライにしてしまう「一斉授業」

● 学びが楽しくなるには基礎学力の習得が必要で、そのためには「ある程度我慢して勉強する」ものではないのですか？

苫野先生: そこに大きな誤解があると考えています。読み書きや計算などの基礎的な学力は、『苦痛を伴わないと身に付かないもの』ではありません。

むしろ現状では、多くの学校で『学びを嫌いにしてしまうシステム』を採用していると言った方がいいでしょう。

『みんなで同じことを、同じペースで、同じようなやり方で』『言われたことを言われた通りに』学習する、一律一斉のカリキュラムや授業。子どもたちが小学校に入った途端に勉強をキライになってしまうのは、この一律のシステムが一つの根本的な原因だと考えています。

みんなで同じことを同じペースで進めれば、理解に時間がかかる子がいたり、反対にすぐにわかって退屈してしまう子がいたりする。これはよく考えれば『当たり前』のことです。

にもかかわらず、同じペースで授業を進めることが前提になっているために、わからない子はわからないまま授業の間中じっと耐えて座っている、わかっている子はすでに理解したことを一方的に何度も教えられる、もしくは何度も同じことを一緒にやらされる。

これでは、学校や学びが楽しくなくなってしまっても仕方ありません

(続きはこちらから・・・) 講談社コクリコ: 小学校教育は150年不変 「次の授業のカタチ」はこうすれば拡がる!

<https://cocreco.kodansha.co.jp/general%2Ftopics/education/FvjJk>

それではどうしたらよいかについて、苫野先生は「学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合」を提唱しておられます。詳しくは上のリンクの連載記事で続きを読んでみてください。

このようにまだまだ多くの小学校以降の学校では、「黙って座って、先生の話聞く」ことが中心の授業が行われているようです。

また、一般的な親御さんたちにとっても、「基礎的な学力は小さいうちから・・・」、「将来困らないように・・・」という思いが強く、いわゆる「お勉強」を子どもに無理強いしてしまいがちです。

就学前の保育園、幼稚園、認定こども園は、どうしても「学校に上がる前の準備期間」のように見られてしまいがちで、子どもたちが小学校にあがってから困らないように、あれをさせてほしい、これをさせてほしいと要望を受けることもしばしばです。

しかし、今は日本の教育も変わり始めています。「生涯にわたって学び続ける姿勢」を育てていくためにも、「自分の興味のあることに夢中になって取り組む」という体験が非常に重要であると思っています。

毎日、夢中になって遊んでいる当園の子どもたち。幼児期は「無自覚的な学びの時期」とも言われますが、本当に日々様々なことを考え、感じながら自分の世界を広げていっているのだろうなあと感じます。

日々のLearning Story 楽しみにしてくださっているご家庭も多いかと思いますが、ぜひ、子どもたちが園での生活、遊びを通して、今どんなことに興味を持って、どのように自分の世界を広げようとしているのかなど、私たち保育者と一緒に考えていって下さると幸いです。